別紙２

異文化理解促進プログラム協力講師　自己紹介

※公開可能な内容のみ記載ください。



名前：MYAT THIRI LINN(ミャッティリリン)

職業：学生

所属：広島大学

専門分野：IGS

日本語レベル：中上級（JLPT N1、やさしい日本語での講義が可能）

英語レベル：中上級（IELTS 6.5、TOEIC IP（L&R）855 点、講義ができる）

出身国や外国で過ごした経験について教えてください：

ミャンマー出身です。ミャンマーは、多様な民族、言語、文化を持つ国です。私はカチン州で生まれ、そこの学校に通い、20 歳頃までそこで暮らしてきました。母はカレン族、父はシャン族で、二人ともカチン州で生まれ育ちました。いろいろな理由で、民族の言語を学ぶ機会があまりありませんでしたが、それぞれの民族の言語を母語とする友達に囲まれ、共通語としてのミャンマー語を使いながら、異なる民族的背景を持つ人々が同じ地域で暮らす環境を身近に感じて育ちました。

高校を卒業してから初めてヤンゴンに行き、同じ国なのに、自分にとってはあまり馴染みのない都会の生活に触れました。しかし、4 か月ほどで、新型コロナウイルスの影響により、再び地元に帰りました。2024 年に再びヤンゴンに行き、4 年前とは違う視点から、もう一度ヤンゴンでの生活を経験しました。そこで、さまざまなボランティア活動やアクティビティを通して多くの人々と出会い、自分の視野を広げることができました。そこから、同じミャンマーで生まれ育った人々の間でも、それぞれの経験や考え方には多くの違いがあることを、以前より深く理解するようになりました。

2025 年 10 月には、JENESYS プログラムに参加し、初めて日本を訪れる機会を得ました。1 週間だけの訪問ではありましたが、生まれて初めての海外経験だったこともあり、とてもわくわくしたことを覚えています。日本語もある程度話せましたし、異なる背景を持つ人々や文化に触れることにも慣れていたため、日本でもそれほど苦労しないだろうと思っていました。しかし、実際に異国で生活することは、想像していたほど簡単ではありませんでした。食事も、言語も、文化も、日常生活の中で当たり前だと思っていたことも、すべてが新鮮で、慣れないことばかりでした。

その後、2026 年 3 月末に再び日本に来て、現在は広島大学の学部生として大学生活を送っています。1 週間ほどの短い訪問では気づかなかったことも、今回は実際に日本で生活することで、新たに発見しています。これから広島大学で過ごす時間を通して、さまざまな人々と出会い、日本についてさらに理解を深めていきたいと思っています。

広島の児童・生徒たちにどんなことを学んでほしいですか：

今まで生きてきた中で、それほど多くの経験をしてきたとは言えませんが、自分の経験に大学で学んでいることも加えながら、児童・生徒の皆さんに、異なるものやことに対して、さまざまな視点から見て考えることの大切さを伝えていきたいです。

人と人とのつながりや交流を通して、まだ知らないこと、異なる文化、馴染みのない街、そしてこれからの人生で出会う人々に対して、最初から決めつけたり、簡単に枠にはめたりせず、好奇心を持って向き合ってほしいと思います。また、自分とは異なるものや新しいこと、まだ知らないことをお互いに尊重しながら、何気ない毎日の生活の中でも、新たな発見をしてほしいです。

自己紹介を自由に記載してください（写真などもお使いください）：

ミャッティリリンと申します。ミャンマー出身で、広島大学総合科学部国際共創学科の 1 年生です。専門分野はまだ決めていませんが、将来は、物事をさまざまな視点から捉え、それぞれの背景や影響を多角的に考える研究や仕事に携わりたいと思っています。また、自分とは異なる考え方や価値観にも目を向け、さまざまな人々との交流を通して、自分の視野をさらに広げていきたいです。これまでのミャンマーでの生活や日本での経験を生かしながら、ミャンマーの文化や日常生活、習慣などを紹介し、児童・生徒の皆さんと楽しみながら一緒に考え、学び合う機会を大切にしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。